

令和 6 年度第 1 回コミュニティ・スクール委員会

(清水・御影 CS 委員会合同開催)

会 議 録

1 出席委員等

清水 CS 委員会～長尾委員、宮城委員、梶委員、小室委員、中村委員、堀委員、高金委員、森委員、高委員、内田委員、寺岡委員 欠席～土屋委員

御影 CS 委員会～米光委員、口田委員、太田委員、若原委員、久野委員、上谷委員、大石委員、佐藤委員、乙戸委員、金山委員 欠席～細田委員

【教育委員会】山下教育長

【事務局】渋谷学校教育課長、安ヶ平社会教育課課長、太田同課参事、山川教育指導幹、野田教頭、村尾教頭、津田副園長、三木教頭、堀口教頭、休宮教諭、増田教諭、久萬教諭、筒井教諭、上出 CS コーディネーター

2 場 所 清水町文化センター大集会室

3 日 時 令和 6 年 4 月 17 日 (水) 19 時 20 分

しみず「教育の四季」地域学校協働本部会議に引き続き開会

4 傍聴人数 1 名

5 会議内容

学校運営協議会(CS委員会)委員の任命

教育長より各 CS 委員会代表に交付し、その後、各委員会において学校教育職員より各委員に手交する

委員長及び副委員長の決定

委員会会則により本年度は両中学校 PTA 会長に委員長として決定

副委員長は委員長指名により清水 CS 委員会は土屋委員に、御影 CS 委員会は大石委員に決定

説明・協議事項

合同会議は CS コーディネーターが議事進行

(1)コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について(事務局説明)

学校教育課長よりしみず「教育の四季」地域学校協働本部会議配布資料を基に制度を説明

(2)各学校等の経営方針について(各学校等から説明)

第 1 回しみず「教育の四季」地域学校協働本部会議における説明をもって CS 委員会説明とする。

清水・御影小学校長及び清水・御影中学校長から本年度経営方針を『教育のデザイン「企画編」』を用い説明あり。さらに一体性の観点からしみず認定こども園、御影こども園の経営方針についても各園長より説明あり。

清水及び御影に分散した後に各 CS 委員会において、全委員からの承認を得た。

(3)熟議

大集会室にて、清水 CS 委員会は 2 分散会、御影は 2 分散会で討議し、すべての班から発表を行う。

熟議・しみず「教育の四季」取組の今年度の重点について

しみず「教育の四季」12 の窓のシートを参照し、社会全体で子供たちを育むための家庭・学校・地域が年間を通し特に重点として取り組むべき事項について討議する。

清水 A 班

しみず教育の四季とは、家庭・学校・地域の共通の目標であることを確認した。あいさつは家庭でも学校でも地域でもどの場面でも子供たちにとって大事である。具体的には家庭でしっかりあいさつできない子供が学校や地域でできるのかということになり、まずは家庭でしっかりあいさつの習慣をつけることが大事である。ただ、実際子供たちは家庭の時間より学校にいる時間が長いこともあり学校では年間を通してあいさつができる環境づくりを図ることによりあいさつができるようになるのではないかと。さらに地域の方からもあいさつを受けると気持ちが良いとの話もあり可能な範囲で地域の方からも子ども達にあいさつをしていくことが大切。家庭、学校、地域それぞれで挨拶の習慣づけと継続することが大事だ。

また、今どきの子供はあまりテレビを観ない。スマホやメディアのルールを検討し、子供たちにより良い成長を育んでいかなくてはならない。

清水 B 班

1. 挨拶は今後も徹底していく必要があるのではないかと。
2. 学校に迎えに行く車が多い。特に小学校で歩かない子供が多い。安心して歩けるように交通安全や不審者対策としてこれからも継続して地域挙げてやっていく必要がある。
3. 絵本を通しての学びが将来の読書につなげる。

4. 外で遊ぶ子供が減っている。スマホやメディアやゲームなどの時間が増えている。うまく付き合っていくために、大人が声をかける必要がある。
5. 家庭でも学校でも地域でも同じだが、食の大切さを見返す必要がある。
6. 子ども達にとって達成感が味わえることが大事ではないか。機会を設けることも大切。

御影 A 班

1. 家庭の取り組みとして、健康のために、三食しっかり摂り生活リズム整えて登校することが大事。
2. あいさつはしっかりできているが、大人も声掛けをもっとするべきである。
3. 交通ルールを全体で守っていこう。地域の複数の目で見えていくことが良い。
4. 自己肯定感のアップとして、5 月病など心の病もあるので、家庭ではほめて伸ばす、学校の取り組みとしては、コンクールや作品展、スポーツ大会などの受賞などで自信が持てる取り組みをしてほしい。地域では子ども会や商工会の活動、町民作品展やスポーツ大会などで活躍の場を増やして、自己肯定感を上げて自信につなげてほしい。

御影 B 班

御影の子供たちはあいさつはできているが、継続が大事であろう。まずは大人から継続していくことが大切だ。

学校も多くのボランティアに支えられているが、ボランティアの高齢化や人数減少から有償ボランティアの検討をし、町内にアンケートをしてボランティアを募り集めておくことにより、より地域とのつながりができるのではないかな。

一人一文化チャレンジはどうか。御影にはたくさんのチャレンジできる文化がある。

秋の取り組みとして、今はテレビオフではなくテレビは消えている。夕べの読書と書かれているが、親子で共有できること、たとえゲームであっても外でサッカーするだとかそういう時間を共有することが大事ではないか。「親子で共有しよう家族で語り合おう」というのはどうか。

食関係だけではなく保護者や地域はいろいろな仕事をされているので地域の具体的なことを子供たちが知ることにより、素敵な輪が広がるとよい。

出された意見は、今後、事務局において検討のうえ一本化し全町的な取り組みとしていくことの下承を得る。

(4)その他

特になし

山川教育指導幹の閉会あいさつにより終了。

(20 時 35 分)